

編集後記

紅葉の時期が過ぎると、もう北海道は冬到来です。今年も世界で、日本で、そして北海道でもいろいろありました。宇宙関係では日本の“かぐや”は快挙ですね。月から地球を写した映像を見ると、地球はなんと美しい惑星なんだと感激するばかりです。もし月で生活しているヒトがいたら、絶対に何とかして地球に行ってみたくありませんか。我々地球人が、他の惑星に行ってみたいと思う比ではないような感じがします。しかし来てみてがっかりさせないような地球であってほしいものです。まだまだ戦争、人種差別、貧困、教育、宗教など、人間の英知で解決できない問題が多く、とても住みよい地球になっていないようです。我々は精々100年が一生ですが、ここ50年は爆発的に人口が増加し、人類としての遺伝子の継承は間違いなく行われているようです。しかし人類としての遺伝子継承は行われても世界がより良い方向に向かっていなければ食料不足、貧富の差が増大して人類としては決して“Happy”な方向に向かっていないのではないのでしょうか？

身近なところでは、団塊の世代（私らの時代）は一年で300万人のうち25%が大学に進学（70万人）、現在は150万のうち45%が進学（67万人）ですから、進学者数は殆ど同じです。さらに大学数が増加していますから、進学したい学生は誰でも大学に入れる時代です。しかし国家試験は昔より厳しい状況ですから、合格率は下がってしまいます。大学の生き残りをかけた教育戦争となってきたようです。国家試験を受ける受験生も大変そうです。頑張ってください。

我々教員にも“教員評価”なるものが今年度（2007年）から本格的に開始されました。これが給料にも反映されるようですが、すべて自己申告です。これでは公正中立性はなかなか難しいシステムではないでしょうか。もっともっと議論をして大多数の教員が納得できる方法で遂行していかなければ、そのうち頓挫してしまうのではないかと危惧しています。

今号の総説は生体機能病態学系・歯科放射線学分野の中山英二教授に御願いで書いて頂きました。中山先生は九州大学より北海道医療大学にいられた新進気鋭の大変親しみのある先生です。紙面をお借りして御礼申し上げます。

こんな事を徒然に思いながら今年一年を振り返ってみました。来年度も益々、北海道医療大学雑誌の発展に御協力を賜りますようお願い申し上げます。

次号（第27巻、第1号）の発行は平成20年6月30日です。

会員各位の投稿原稿募集の締め切りは平成20年3月31日必着と致します。期日厳守の上、ご投稿をお願いします。本誌投稿規定（2007年第26巻、第2号の巻末あるいは歯学部生理学教室のホームページ；<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~physiol/>）をご参照の上、投稿してください。